

まちづくり提案 学生表彰 袋井と静岡理工科大 連携講座

袋井市と静岡理工科大(同市豊沢)が連携して開講した「地域学講座」で、市のまちづくりについて優



原田英之市長室から表彰されるBグループの学生。袋井市の静岡理工科大で

秀な政策提案をした学生グループの表彰式が同大であった。

最高の市長賞にBグループの「次世代のふくろいガイドブック」が、次点の学長褒賞にはCグループの「テクノロジーを活かした観光」が選ばれ、原田英之市長、野口博学長から賞状と記念品が贈られた。

Bグループは、袋井への来客のうち日帰りが95%を占め、一人当たりの消費額が四千円未満である現状を踏まえ、観光・イベント情報などを手軽に発信できるスマートフォン向けのアプリ開発を提案。使用言語を

選択できる機能を設けて外国人観光客をサポートしたり、ポイント制度を導入してリピーターの増加を図ったりするアイデアなどを披露した。

Bグループの杉本和香奈さん(む)情報学部一年は「実際にアプリを開発することで観光客呼び込み、市の収益拡大につなげていきたい」と話した。

講座には一、二年生二十八人が六グループに分かれて参加。二〇一九年ラグビーワールドカップ(W杯)を契機とした観光振興策などを四回にわたって調査・研究した成果をまとめた。各グループには市の若手職員一人がついてアドバイザー役を務めた。

(土屋祐二)